

## 序

本学に於ける佛教学会の機関誌として「佛教学セミナー」が発刊されてちょうど十周年を迎えたのである。その始めの研究集会でのささやかな研究成果を発表して世に問うことを願として出発したのであるが、幸に学界並びに教界の期待にも添うことが出来、何よりも会員相互の共同の研鑽に資するところが大きくあり、実りの多い十年の歩みであったことが思われて感謝に堪えない次第である。そのよろこびからこの十周年を記念して特集号を刊行することになり、その研究主題を「業思想の研究」としたのである。

今日の科学的な合理主義にのみ信頼を寄せている人々には、業とか輪廻の思想といえ、もはや現代には忘れ去られた思想として、古い時代の神話のごとくに取り扱われているようである。しかし長い佛敎の歴史のなかに育まれたわれわれ日本人には、既に日常生活において、業という言葉に何か人生の最も内面的・具体的な生きた現実、歴史の事実そのものが感ぜられ、人生の厳肅性・深刻性を思わしめられるものがある。それとともに、業の正しき認識はその現実を自己の全責任として謙虚に荷負せしめて

くれるものである。

幸に今回は印度・中国・日本にわたる長い三国佛教の歴史の展開のなかに、業思想に関するそれぞれの専門の立場からの学問的にもすぐれた論稿を編集して、この記念号が生れたのであるが、現代の如き人生の目標を失った混沌の時代に、宗教的真理に対する大いなる覚醒を促してくれるよき試みであると固く確信するものである。特に本誌のために学外から水野弘元教授・平川彰教授よりご寄稿を頂戴したことを深く感謝する次第である。

大谷大学長 松原祐善